

男女について考える

1 主題

自分らしく生きる(「男女について考える」を通して)

内容項目【A(3) 自己を見つめて、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること(向上心、個性の伸長)】

2 本時の指導

(1) 生徒の実態について

一人一人の人間は、姿や形が違うように、人それぞれには必ずその人固有のよさがある。その個性は能力・適性、興味・関心、性格といった様々な特性において捉えられる。中学生の時期は、自分なりの在り方や生き方についての関心が高まり、「人生いかに生きるべきか」といった命題にも真剣に取り組むようになる。また、社会全体では、男女平等の意識が広まりつつあるが、現実の生活の中では、様々な場面で性差による先入観や偏見が問題となることもある。

(2) 指導内容について

本主題の指導内容は、「自己を見つめて、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること」である。私たちの社会は、男女が自らの役割を正しく理解し、互いに協力し合うことにより、よりよい関係が構築され、理想的な生活が実現されるのである。したがって、いかなる場合も相手に対する理解を深め、信頼と敬愛の念を育むことが大切である。

(3) 資料について

本資料は、中学3年生の作文を基に作られている。筆者は、学校で自衛隊の体験入学の話を目にし、興味をもつが、友達から「女だから、無理よ。」と反対される。友達の言葉に腹を立てながらも、それを振り切って参加を決意できない自分の中にも、「固定的性別役割分担意識」があるのではないかということに気付く。悩みを相談した母の言葉により参加を決意した筆者は、その体験の中で隊員として働いている女性の姿に心をひかれる。そして、その女性隊員と話し、男女の関係なく互いに足りてないところは補い合い、協力していくことの大切さに気付く。性差に対する先入観や偏見をもたず、相互の理解を深めることが大切であると気付かせるのに適した資料である。

(4) 指導の工夫について

本時は導入において、自分の中にも、「固定的性別役割分担意識」があることに気付かせ、その後、男女の協力についてのクラスの意識や課題をアンケート結果により提示し、ねらいとする価値への方向付けを行う。展開では、性差について悩み、自分の中にも、「固定的性別役割分担意識」があることに気付いた筆者が、体験活動を通して性差を超えた信頼関係の大切さを感じ取ったときの心情に迫りたい。そして、男女が相互に性差を理解したうえで、協力していくことのすばらしさを感じさせたい。終末では、自己の生活を振り返らせ、社会の中で望ましい人間関係を築くために大切だと思うことを考えさせたい。

(5) ねらい

自己を見つめて、自己の向上を図るとともに、人間として互いに尊重し合い、共に向上していこうとする態度を育てる。

(6) 準備物

事前アンケート結果、挿絵、ワークシート

(7)

学 習 活 動	指導の工夫点、留意点
1 導入 (1) 「女だから…。」「男だから…。」「女のくせに…。男のくせに…。」と言われたことを思い返す。 (2) 言われてどう思ったか、どう思うかを班活動で話し合い発表し合う。	○ 日常の様々な場面を思い起こさせ、気付かないうちに自分たちも「固定的性別役割分担意識」をもっていたり、考えていたことに気付かせる。 ○ 日頃思っていることを発表させ、考えを共有させる。
2 アンケートの結果を知る。	○ 事前にアンケートを実施し、その結果から個々が出した答えを共有し、誰しもが、「固定的性別役割分担意識」をもっていることを認識させ、本時ねらいとする価値への方向付けを図る。
3 資料「男女について考える」の前半を読んで話し合う。 (1) 「女だから…」と言われて嫌気がさしてきたときの筆者の気持ちを考える。 (2) 体験入学の参加に悩んでいるときの筆者の気持ちを考える。	○ 友達の考え方に触れ、性差における偏見について考えさせる。 ○ 体験活動に参加したい反面、自分の中にも「固定的性別役割分担意識」があると気付いたときの筆者の心情に迫らせる。
4 資料「男女について考える」の後半を読んで、女性隊員の話聞いたときの筆者の気持ちを考える。	○ 女性隊員の発言から、互いに協力していくことの大切さに気付かせる。
5 自己を振り返り、思いを深める。	○ 自分の考え方を振り返ってワークシートにまとめさせ、発表をさせることで、学級で共有し、本時のねらいとする価値への思いを深めさせる。
6 教師の説話を聞く。	○ 体験談を話し、思いを深めさせる。

(8) 評価の視点と評価方法

- 男女が互いに尊重し合い、共に人間として向上していこうとする意志が強まったか。
- 発言内容やワークシートの内容を分析する。